2000年1月15日発行

Ishi Datami

いしだたみ

メルカつきまち

２０００年冬
ＶＯＬ・１５

長崎南高関西同窓会

NAGASAKI
新歳時記

築町市場

思案橋側から浜の町のアーケードを抜けて中島川を渡ると、長崎市民の台所とよばれる築町市場に出ます。中央橋のすぐそばで、ここにくれば長崎名物のからすみからくじら、イワシのかんぼこからカンコロ餅まで何でも揃います。諫早に住んでいたころは毎年夏と冬、築町市場で故郷の味を仕入れては関東に住む母親に送ったものです。いまは私も京都暮らしとなり、築町市場を恋しく思うばかりです。その築町市場が「メルカつきまち」という、地下１階、地上５階建の素敵なビルに生まれ変わりました。これまでの築町市場は地下にあり、１階から３階までは日常食品売り場やレストランが、４・５階には西部ガスや市民ホールが入っています。

何と言っても目を引くのはポルトガル風のビルの外観で、地中海を思わせる明るい壁と、入口正面に飾られたアズレージョとよばれる鮮やかな絵画タイルが魅力的です。ポルトガルの下町の町並みをイメージしたということで、「目覚めの泉」と名付けられた水のモニュメントや客を迎える極彩色のニワトリなど、遊び心もたっぷり。遊び心といえば屋上にある風の灯台は日本初の「モニュメント型縦軸回転式風力発電機」で、秒速１・０m以上の風を受けて、ゆったり回転しながら電気を作り出しています。

容れ物はしゃれたビルに変わりましたが、市場のもつ雑多な魅力は変わりません。故郷の味は健在です。帰省の折りはぜひ装い新たな築町市場を覗いてみてください。

２回生　中野　章子

インデックス

NAGASAKI　新歳時記	2
なつかしい手紙	3
中村　格先生	
総会特集	4・5・6
リレーエッセイ	
高石　濶	7
リレーエッセイ	
山尾　博	8
リレーエッセイ	
簇先　好一	9
クローズアップ仲間	9・10・11
インフォメーション	12

懐かしいてがみ

中村 格先生

長崎南高関西同窓会の皆さん、先日（９月１１日）の関西同窓会の日まで、つまり昭和５７年（古い話で恐縮ですが）に長崎南を離れて以来、長い間ご無沙汰しておりました。思いもかけず、その同窓会にお招きいただいたときは、本当にびっくりしました。久しぶりに、昔の姿のままの皆さんにお会いできて、懐かしく、嬉しく且つ有り難く、過ぎる時間の早さをついつい忘れてしまうほどでした。

出席させていただく前は、池谷さんや、七嶋君に幾度か誘われていたのに、なかなか返事も出さず、決断力（？）のなさにわれながらあきれたものです。勤務の繁雑さもさることながら、時間割り変更が大変だし、都会に出掛けるのはどうも、という気持ちもあり、少々オーバーですが、かなり心が揺れたことを覚えています。呼んでいただくだけで有り難いことなのに、まったく贅沢な話です。結局、池谷さんの「万難を排して」の言葉で、厚かましくも出掛けていきました。

さて、私たちの青春時代は、今思い起こしますと、貧しく厳しい時代でしたが、その時代が私たちを育んでくれたように思います。貧しさゆえに卑屈になったり、傷ついたりしましたが、逆に周囲の優しさ、思いやりを痛いほど感じ取ることもできたからです。今回の同窓会に出席して、思わぬ人が市議になったり、レストランを成功させたり、その他思いもかけない出来事があったりして、本当に楽しい宴でした。仕事の酒はおうおうにして、利害や打算がまじって芯まで酔えませんが、仲間や同窓生との酒は本当に楽しい。あの母校での生活を共有している友や仲間に対する安心感のせいでしょうか。

ところで、私の教職生活は、昭和３５年の観音寺一高（香川県）が振り出しです。そして、５７年４月に長崎南から長崎東に移り、その後、上五島・佐世保工・諫早に変わりました。年数は順に、４・１８・６・３・３・４の合計３８年間ですから、その半分近くは長崎南ということになります。現在は、長崎高等予備校に、とある高校と掛け持ちで勤めています。心身ともに健康とはいきませんが、相当数の授業等をこなし、その対象も中・高・大・一般と多岐にわたります。そして、能率はもちろんよくないのですが、年齢相応くらいは体も動きます。予備校では、理系クラスのＨＲＴを任され、若い生徒たちとの生活が、今大変充実しています。今回の同窓会で、皆さんにまた新鮮な力強いエネルギーを与えていただきました。

それにしても、大阪では、松本会長さんはじめ、たくさんの方に大変お世話になりました。関西同窓会の方々の、人のまとまりと言いますか、繋がりのしっかりしているという点は、他にはそうないのではないでしょうか。会員がいわゆる「同窓会年齢」（役員の方の言）に達すれば、もっともっと充実発展するのではという感を強くしました。私の方は、できるだけご迷惑にならないようにと心掛けてはいましたが、なかなかそうはいかなかったようです。皆さんのご厚情とお心配りに対し、吉野先生ともども、重ねて厚くお礼申し上げます。

最後になりましたが、同窓生諸氏の今後益々のご健勝・ご多幸と一層のご活躍をお祈りして、筆をおきたいと思います。

（吉野先生にも、御丁重なお礼状をいただきました。）

第9回総会

平成１１年９月１１日（土）
大阪キャッスルホテル
恩師　吉野　和之先生
　　中村　格先生
出席者　　５７名
（恩師２名）

恩師を囲んで

２回生　松本　藤一
　　田原　勝
　　前原　晃昭
　　片江　幸男
　　高石　濶
　　石井　清人
　　中野　章子
　　高橋　市治
　　辻田　峰男
　　中野　秀子
　　中村　博

１回生　古川　源蔵
　　中山　雅一
２回生　中野　章子
　　中野　秀子
１６回生　手塚　律子
１７回生　七嶋　義則
２７回生　旗先　好一

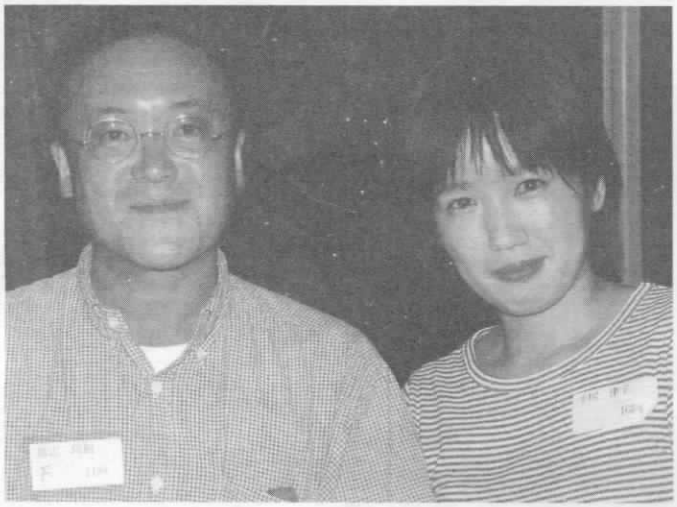
３回生　山内　平介
　　池水　安之
　　稲岡　吉之
　　川崎　久美子
　　尾崎　淑子
　　田生　正子
　　松永　文子
　　山下　昌子

4回生　太田　正博
伊藤　賢一
板垣　金好
松島　育代
山下　幸子
山本　絹代

5回生　平山　英二
水本　節
平田　正浩
野口　博
楠　清喜
山尾　博
吉田　良平
彦田　恵美子
池谷　秀子

6回生　中島　猛
廣瀬　光男
井上　芳文
浦川　秀孝
藤原　由美子
井上　久美子
7回生　神杉　恵助
大石　哲史
金丸　源治

８回生　　牛込　恒
　　東　　春彦
１４回生　本田　佳明
　　金尾　義男
　　植木　隆之
１４回生　近藤　弥恵子
２７回生　簇先　好一



１１回生　渡辺　俊樹

東京から前原さん

３回生は美人揃い

出版ご案内

●吉岡　みね子（４回生）
「タイ文学の土壌」
渓水社　　５，５００円

●松永　典子（本名文子）　　３回生
「木の言葉から」句集
富士見書房　２，８００円

本屋さんで探してください。

リレーエッセイ PART1

新たなる挑戦

２回生　高石 濶

人生５０年を過ぎ、サラリーマン稼業はそろそろ秒読みの段階に入るが、人生は半ばをちょっと過ぎたくらいで、まだまだ長いと本人は思っている今日この頃である。バブルの絶頂期には、定年後はゴルフ場の近くにセカンドハウスを持ってゴルフ三昧と晴耕雨読の生活にあこがれていたけど今となってはかなわぬ夢物語である。

そこでこれからの長い人生をエンジョイすると共にボケ防止のために何か新しい事に挑戦しようと思い立ち、時代の流れに乗り遅れないためにも、子供もするというパソコンにチャレンジする次第である。

ある日、カーラジオから流れるパソコンの通信販売を聞き、「よしこれに決めた」と早速申し込んでしまった。

それまではカミさんがＥメールをやりたいとか言っていて「お金は私が出すから、お父さんもいっしょにやろうよ」とのたまわっていたが、その時は全く無視していたので、突然の豹変ぶりに、びっくりするやらあきれるやらのうえ、何で買う前に一言相談しなかったかとうるさいこと。

やがてパソコンが配達されてきたが、組み立てるというか接続しないと使えないしガイドブック見るのもめんどうなので、息子の友達がパソコンに精通しているということを小耳にはさみ、彼に依頼して一応立ち上げてもらいマシンは動くようになった。しかしインターネットを利用するには電話回線（ISDN）やターミナルアダプターやプロバイダーやらとわけのわからないことばかりだし、まだお金もいるし、こんなことならやめときゃよかったと思っても後の祭り。カミさんの手前も何とかＥメールくらいはものにしなければと、目下、「気迫」と「情熱」をもって格闘中である。

この原稿が没にならず、運よく「いしだたみ」に掲載され、皆さんの目にとまるころは、しっかり「オタク族」となり、パソコンの前にへばりついているか、もうやめたと言って、パソコンを枕に高鼾か、乞うご期待、次回はインターネット上で会いましょう。

２回生　高石先輩

２７回生　新人　旗先クン

リレーエッセイ PART2

メーリングリストの楽しみ

5回生　山尾　博

久しぶりに出席したビヤパーティで盛り上がっていたのがインターネット（IN）の話題でした。１回生の方々はＥメールで連絡しあっているとのこと。

Ｅメールを応用したものでメーリングリスト（ML）があります。MLはシステムの管理者がおり、参加された方がMLにメールを出すと参加者すべてに一度にメールが流れます。最初、どのような性格付けのMLかを調べて加入します。私が参加したのは犬のMLです。しばらくするとそのMLに飽きてしまい、アメリカにある「イングリッシュコッカー」のMLに加入しました。日本からの最初の参加者だったので、歓迎のメールをたくさん貰いました。さまざまなメールの中に「２０年前、日本からの留学生と同じ寄宿舎だったのだが、音信不通になってしまった。岡山出身なのだが」というのがあり、INでの電話番号検索で探しだし、連絡してあげました。私も自己紹介で愛犬を譲ってもらったブリーダー名などを簡単に記しました。するとアメリカのSさんから「あなたの子犬の母犬はエリザベスという名前では？」というメールを貰いました。なんとこの方は私の子犬の母犬の元ブリーダーさんだったのです。世の中なんと狭いことかと思いました。

犬種別のMLですので、日本で得られる情報とは格段の差があります。多くの方はブリーダーとして活躍されている方です。

先日、素晴らしい情報がこのMLに流れました。eBAYに１９４２年出版の初版本で著者（ゴールズワージー）がさる著名人にあてたサイン入りの本が出ているとのこと。eBAYとはアメリカにあるINのオークションのサイトです。アメリカでこの犬種を確立した著名な本ですが、通常では入手困難です。なんと私が初めての参加で落札してしまいました。MLの管理者が「私ももっと読んでみたい作家である」とメールをくれました。調べてみると、１９３２年にノーベル文学賞をもらった作家でした。犬本の場合は挿し絵があり、文体もそう難しくなかったのですが、今回は文芸作品なので相当手こずりそうです。

このMLで感心するのは、アメリカのコソボ爆撃の時、コソボのブリーダーさんが、経済的窮状を訴えてこられた時、援助金を送る運動をしたことです。INの力を垣間見た気がしました。INで世界を変えていくことすらできると思っています。

私はこのMLにお世話になっていますが、いつか御恩返しをさせていただくことができればと思っています。会社の仕事を離れた時にシステム管理者として立候補することを考えています。多くのMLは個人が送ったメールは自動的に全員に流れ、事が起こった時に管理者が行動を起こすタイプのものです。ところがこのMLは出版社がサーバーを提供し各犬種のMLは管理者が全てのメールをチェックしなければならないシステムとなっています。犬のことは勿論、話の流れをつかんでおかなければなりません。犬のことだから大した問題は起こらないとは限らず、時として大論争となることがあります。

なにか一つでも興味のあるMLを捜されると今までとは違った道を歩むことができるかもしれません。それがまた楽しいのです。

MLの捜し方は以下のサイトを参考願います。

http：//mlnews.com/ml/

http：//www.pubzine./whatsNew.asp

ご不明な点は、engcocker@hotmail.com まで連絡ください。

リレー**エッセイ** part3

初めて同窓会に参加して

２７回生　旗先　好一

大学まで長崎で過ごし、就職で初めて故郷を離れ、この地大阪での生活がまもなく３年半経とうとしています。現在、私は製薬会社で営業の仕事をしています。営業に出て半年程で業界の狭さを実感し、このままでは行き詰まってしまうかもしれないという不安を抱き、外に目を向けて違う業界の方と接していろんな話を聞いてみたいと思い、身近で参加できる会として同窓会の出席を考えました。思い立った時にはまだ自分に余裕がなく、出席は今年の９月になってしまいました。

今回同窓会に出席するにあたり、私は１つのイメージをもって出かけました。それは先輩方から同世代（２０代）まで幅広い年齢層の方が出席されるという期待感でした。しかしいざ出席してみると、私と同世代の方の出席はなく、最も近い方で１０年先輩で、何となく戸惑いを感じました。やはり同世代の方は同窓会というと何らかの固定観念があるのでしょうか。そこで私は会社の同僚や後輩など十数人に同窓会のイメージを聞いてみました。すると大半の方から「いろんな事を聞かれる」「いずれ幹事役がまわってきそう」「同世代の人だけなら」など、何となく面倒くさそうな、そしてもっと他に楽しみはあるという意見がでました。やはり何らかの目的を持たないと積極的には参加することはないのかなと思いました。

最後に一言だけお伝えしたい。「一度だけでも出席されたらいかがでしょうか」高校の先輩というだけでなく、人生の先輩、いろんな経験をされている方がいらっしゃいます。私も諸先輩にお声をかけていただくなかで、参考になることがあり、嬉しい思いをしました。もしかするとそこには悩みを解決できるヒントがあるかもしれません。ぜひ次回の総会に若い方の出席を待っています。

クローズアップ

仲間 No.4

冨永　佳与子さん

９年前、とある日曜日、ちっぽけな雑種の子犬が、我が家にやって来た。
それまでは、小指の先ほどの興味もなかったのに、「きちじろう」と名付けたその子犬を抱き上げたとたん、コンパニオンアニマルの世界にスコンとはまり込んでしまった。
「エッ、世の中こんなにたくさんの犬がいたの？」という感じで、私の暮らしの間口はあっという間に１０倍ほど広がった。

この夏、住んでる地域の自治会からお知らせのプリントが回って来た。要約するとこのようになる。
「犬の散歩の際、糞は持ち帰ること。またおしっこは匂い等で迷惑をかけるので各自が水を入れたペットボトルを用意し洗い流すこと。」頭がクラクラしてしまったが、昔の私のように犬に興味のない人はこの文章に何の疑問も感じないのではないかと思った。糞を持ち帰るのは当たり前だと私も思う。問題はおしっこの件。他人の玄関先などは遠慮するということもよくわかる。しかし、犬はテリ

トリーを示すために匂い付けをする習性があり、オスの場合１度の散歩で２０回以上はおしっこをすることもあり、すべて洗い流すにはボトルを何本抱えて散歩すればいいのだろう。犬は人間がこの地球に登場したころから、人間の居住空間の近くに存在していた生き物であり、「神様」がそのような習性を犬に与えているのなら、人間の都合でその習性を否定などしていいものなのだろうか。
確かに、いろんな考え方、いろんな意見はあるほうがいい。
迷惑な事や危ない事を虱潰しにして人間の安全を確保しようとするのも１つの考え方だとは思う。しかし、その結果息苦しさを感じているのも、また人間なのではないのだろうか。
これは単にペットの問題ではないと思った。
人がこの地球でどのように生きていくのか、いろんな人の話が聞きたいと思っていた。

ちょうどそのころ、南高の後輩に愛玩動物飼養管理士（ペットケアドバイザー）としてがんばっている冨永佳与子さん（１７回生）がいらっしゃることを聞き、さっそく「クローズアップ仲間」に登場してもらおうと、連絡をとった。
大きなイベントを１１月７日に控え超多忙の佳与子さんに無理を言い、１０月１３日、昼食をとりながらのインタビューだった。

彼女は大学卒業後田崎真珠に就職し広報の仕事に就いた。結婚退社後も企画関係の仕事をしていたが、１０年前からフリーでその仕事を続けている。
また９年前に犬との出会いがあり、５年前震災の年にペットケアアドバイザーの２級の資格を、翌年１級の資格を取られた。さてその愛玩動物飼養管理士という資格だが、これは昭和５３年に設立された社団法人日本愛玩動物協会が発行する資格で、「人と動物の平和な共存」という趣旨のもと、各動物の飼養管理、犬猫のしつけ等の知識を体系的に習得、普及するという役割を持っている。兵庫県では、震災直後、被災した動物達の保護に在住のペットケアアドバイザーがあたったが、それを機に統一された地域組織として兵庫県愛玩動物飼養管理士会を設立した。彼女はその設立時からのメンバーなのである。

彼女が仕事で体得した企画力が、管理士会でもおおいに発揮されていることは、初対面でもよくわかった。
小柄の体いっぱいにエネルギーがあふれ、よく動くクリクリした目の暖かさに圧倒され、「同窓会を手伝って。」と口走ってしまったが、とてもそこまで手が廻らないとやさしく断られてしまった。（でもそのうち出てきてね、冨永さん）

１１月７日、彼女が実行委員会の副委員長を務めるる「ワンワンフェスティバル’９９ inKOBE」はポートアイランド芝生広場で開かれた。
晴れたらいいねの願いどおり、いい天気、我が家の「きちじろう」は他の犬とけんかをしてしまうくせがあるので（そうです、しつけが悪いんです。）留守番させて、友達の愛犬アルちゃんが主役、うちのダンナを含め人間５人がお供でくりだした。
芝生広場は人と犬とで大満員、それぞれの家族がワンちゃん連れで参加している。
冨永さんはとても忙しく飛び回っていたので、ちょっと挨拶しただけだったが、会場には５回生の山尾さん夫婦、１６回生の手塚さん夫婦が、どちらも自慢の愛犬を連れて姿を

見せていた。
いろんな犬に囲まれ、すっかりのんびりできた１日、また真っ黒に日焼けしてしまったけれど、心が安らかだった。これほど私達の生活に潤いを与えてくれ、有史以来共に生きる仲間としてずっと人間のそばにいた犬や猫たち。彼らが人間社会と上手く共存していくために私達飼い主も、もっともっと努力しなければいけないし、動物が嫌いな人たちとも理解しあえるなにか「糸口になるもの」を捜さなければならないと思った。

「糸口」の１つの考え方として最後に冨永佳与子さんからのメッセージ。

さて、「ペットケアアドバイザーとして言いたいこと」ですね。
それは、「命」に対して責任を果たして欲しいということです。
ペットの「命」だけでなく、あなたの周囲にいる全ての「命」に対しての責任です。例えば、飼い犬に苦情を言われたら、その苦情を言う人も辛い思いをしていると想像すること、苦情を言う側は、自分とは別の「命」に対して、そこまで言ってもいいものかと立ち止まって考えてみるといったこと。
そしてそれぞれが他者の「命」に対して責任ある解決策を探して欲しいのです。こういったことは、ペットに限ったことではないですよね。
ペットの問題は、掘り下げるほどに人間の問題なんだと思います。
あと、「命」を預かったからには最後まで預かること。更に人に迷惑をかけないようきちんと飼うことです。例えば、飼えなくなって、次に飼ってくれる人が見つからなくても、捨てたりしないで、その「命」の最後の責任まで負って欲しいということもあります。捨て犬を見つけても、飼いきれなくて、泣く泣く保健所へ連れて行かなければならない人もいます。
保健所の人は犬を処分するというので悪くいわれがちですが、動物が好きでなった獣医さんが多く、その勤務先で助けたくても助けられない現実に苦しんでいます。そういった方の「命」にも無責任なことはして欲しくありません。迷い犬が交通事故にあいます。複雑骨折したり、眼球が飛び出したり、内臓が損傷していたり。難しい緊急手術をし、幾晩も寝ずに点滴し、やっと助けて、容態も安定し始める２週間後、保健所の獣医さんは彼らを処分しなければなりません。飼い主が見つからないからです。現行の制度にも問題点がない訳ではありませんが、それぞれの飼い主さんが、「命」に対してきちんと責任を果たしていれば、年間に５０万頭もの私達の仲間である動物が死ぬ必要はないでしょう。
「ペットケアアドバイザーの仕事を通じて感じること」は多種多様で、詳しくお話するときりがありませんが、人間の「命」も軽んじられる昨今、この小さな「命」達を見つめることが、結局は人間の「命」を見つめ直すことになるんだなあと感じています。

（文責　５回生 池谷　秀子）

インフォメーション

★平成12年年間行事予定

◎　1月　　「いしだたみ１５号」発刊

◎　2月4日（金）　新年会　　「甘太郎」　℡０６－６２４３－７８８０
PM６：３０～　　大阪市中央区心斎橋１－５－２７
甘太郎ビル４Ｆ

◎　4月　　春季ゴルフコンペ

◎　7月7日（金）　納涼ビアパーティ　　「アサヒビアハウス梅新」
PM６：３０～　　℡０６－６３１１－２８２９
大阪市北区西天満４－１５－１０
同和火災フェニックスタワーＢ１Ｆ

◎　7月　　「いしだたみ１６号」発刊

◎ **9月24日(日)　第10回総会**

関西同窓会が10周年をむかえます。幹事一同、10周年にふさわしい記念の会になるよう、総力を挙げて、楽を練っています。
どうぞ、お楽しみに。
また、いい楽をお持ちの方は、事務局までお電話ください。

◎　１１月　　秋季ゴルフコンペ

◎　１２月１日（金）忘年会　　「中央軒」
PM６：３０～　　℡０６－６６４３－００２０
大阪市中央区難波４－２－１１

発行人　長崎南高関西同窓会
会長　松本　藤一
編集人　池谷　秀子
〒541－0041
大阪市中央区北浜2－3－6
北浜山本ビル3F　松本法律事務所
℡　06－4707－8518
Fax　06－4707－0038

編集後記

松永先輩の句集「木の言葉から」を読ませてもらった。その方面、全く暗い私だが、みずみずしい句が多く、おもしろかった。俳句は紙とエンピツさえあれば、取り合えず始められるし、これから先のお楽しみにもなりそう。
松永先輩の本を水先案内人として、俳句の世界も味わってみてください。

（５回生　池谷　秀子）